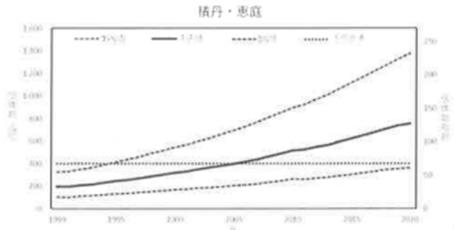


1 札幌市が属する地域個体群

「積丹・恵庭地域」の個体群（石狩西部のエゾヒグマ）
 →環境省のレッドリストで「絶滅のおそれのある地域個体群」に選定



地域個体群の推定生息数は増加傾向にある



2 札幌市の地理的特徴

① 森林が接している

- 市域の約6割が森林
- 人口密度が高い市街地と森林部分が接している
- 森林はヒグマの生息域ともなっており、市街地への出没が多くなる要因のひとつ

② 多くの河川が市街地を流れている

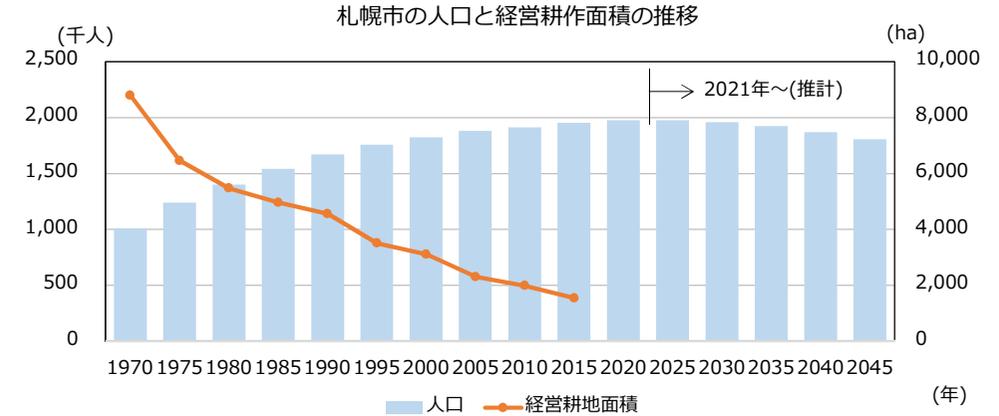
- 市内には、一級河川から農業用水路に至るまで多くの河川があり、人や動植物にとって重要な役割を果たしている
- ヒグマは水路を伝って移動するため、市街地への侵入経路となり得る

③ 「みどり」を活用したまちづくり

- 都心部などの公園や公共施設の緑化により、都市の安全・安心を高めるとともに、うるおいや賑わいを創出するまちづくりを行っている
- ヒグマが緑地帯を利用して都心部に侵入するおそれ

3 札幌市の人口推移(仮)

人口減少、農地減少、高齢化、人口集中…などを示したい



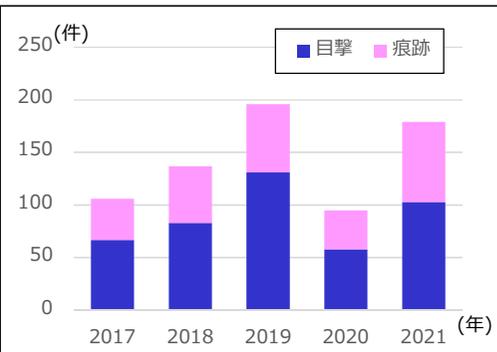
- 人口は増加してきた一方で、耕作面積は減少している
- 市街地に人口が集中、高齢化等により農地は減少、森林ギリギリまで住宅が広がる
- 今後、人口減によりその傾向がさらに顕著になる可能性

人とヒグマの距離が今後、より近くなっていくことが示唆される

4 札幌市におけるヒグマの出没状況

「生態」の話はコラム、又は後ろの資料編で

出没件数の推移



生息調査結果

- 2020年度に大規模調査
- 識別個体数増加

DNA分析結果からみる出没傾向

出没時の現地調査において採取したDNAサンプルや、市街地周辺部のヘア・トラップ調査(生息調査)により得られたサンプルを分析し、これまでに66個体の識別に成功

出没に関係しているのは一部の個体

農作物や放棄果樹に誘引された個体が出没を繰り返し、その多くはメスの個体

若齢個体がこれまで生息が確認されていない地域(市街地)に侵入

DNA結果を出没事例に当てはめてみる。
 DNA分析結果は掲載可能であれば、コラムもしくは巻末の資料編に載せたい

6 札幌市が抱えるヒグマ対策の課題

